

大阪錦繪新聞

第37号

九市

笹木芳瀧記

并、再

去る年西京なほ掃る悪人と、噂の高き
一件、下京第二十二區八坂庚申堂の
東まで、浅井柳塘と云再師、春多
他国へ出仕業は行跡は母と子と。
妻と弟子とは田主居させ、歳の暮も
ありえ入費あつて出先ある出雲の
国より儲け金届けーと見てカ、身
子の新藏ラフト悪心の又にうかあは
さよ。老女の咽喉を刺しぬいて、内室へ
袈裟切りとさる子へ、柱に縛り手足を切り、また
其ま金子ととり、師匠の家へ火を附て、逐電を
せし十二月、九日の夜の道も法も。
こきぬをかきとてあまりある天罰いくで
のうあべく、美濃の国までめーとくも、死罪は
多し、新藏へ、生国飛弾の高山ありしと

石和板

